



仙台大学での「ころばぬ先の元気塾」



半澤勝好 議員

Q 介護予防に筋トレの導入を

A 関係機関と連携し調査研究をする

問 現在、国も地方自治体も介護予防に力を入れている。私は5月17日に公明党仙南議員団の一員として、巨理町介護予防拠点施設を視察した。

施設利用は65歳以上で血圧、身長、体重等をチェック、体の症状と浴用適応症を比較しながら入浴し、今後の介護予防事業への発展につなげて

いる。
また、事業と連携して健康状態の確認や困り事、悩み事相談、基幹型在宅

介護支援センターへの連絡体制を整え、利用者の心身の状態を安定させている。

柴田町でもこのセンターを導入して介護予防に力を入れる考えはないかお伺いする。

答 滝口町長 本町でも在宅介護支援センターの虹のかけ橋講座で、自宅で継続してできるペットボトルを利用しているダンベル体操を行い、身体機能の増進に努めています。また、今年度は仙台大

学と連携を図り「ころばぬ先の元気塾」として運動機能の向上や自分の健康は自分で守ることができるよう体験、実践を目的に大学施設を利用して実施することになっています。

本町でも積極的に関係機関と連携して効果的に介護予防の推進のために取り組んでいきます。

介護予防拠点施設は柴田町でも必要なので、関係機関と連携して調査研究していきます。



杉本五郎 議員

Q 水を介した異世代間交流の場を

A 白石川河川敷のポンプアップで

工作物を有効活用

問 本町では、まちの中心を流れる白石川を「個性的な町のシンボル」にするため、階段式の河床

や川の落差を利用して親水池に水を流し、自然の中で憩える広場づくりを進めてきました。

地元の人たちも、河川の清掃や花植え、白鳥

を呼び寄せ、餌付けするなど「ふるさと柴田」づくりに努めています。

長崎での少女殺害事件なども、地域住民と子供たちが交流していれば防

げたかも知れないとして、水を介した異世代間交流

の場としても大きな期待が寄せられています。当初の目的どおり、この事業を完成させるべき

ではないでしょうか。

答 滝口町長 せせらぎ親水池が何ら利用されず誠に残念な現状となっています。

平成13年度羽山歩道橋を撤去した頃から、県の財政状況が厳しくなり、この工作物のもつ意義を十分承知しながらも手をかけられずにあります。

しかし、県では白石川のもつ自然環境を、子供たちの生きた教材とし、遊びの空間、あるいは、ふるさとの自然観察の場



水の流れないせせらぎ親水池

とするため「川の友達づくり支援事業」を展開しようとしております。「川のある町」というのは相当な財産であり、

せっかくの工作物が有効に活用できるよう、ポンプアップなどを県に働きかけていきます。